

北海道に生息する日本産ドジョウ種群の 隠蔽種 (*Misgurnus* sp. Type I) は移殖の可能性が高い

○岡田龍也 (近畿大学農学部)・森田圭吾 (日本ミクニヤ株式会社)・
外山太一郎 (茨城県水戸市)・小野里 坦 (長野県松本市)・
高田啓介 (信州大学理学部)・北川忠生 (近畿大学農学部)

【背景】

日本産ドジョウ種群 (*Misgurnus* species complex) には、日本列島に広く分布する種 (Type II 種: *Misgurnus anguillicaudatus*) と、北日本で不連続分布する隠蔽種 (Type I 種: *Misgurnus* sp. Type I) が含まれている。Type I 種は Type II 種よりも古い遺存固有種と考えられ、本種が持つ系統情報は日本列島の形成と生物相について重要な知見と成り得る。特に、Type I 種は北海道と本州の間にある生物相境界線 (ブラキストン線) を越えて分布しており、生物地理学的に非常に興味深い。ドジョウ種群は湿地帯や水路に生息するなど身近な存在である一方、食材利用としての流通や放流行為などにより各地で外来の個体群が定着している。在来集団と外来集団の分布域について少なからず報告のある Type II 種に対し、Type I 種の情報は断片的である。Type I 種が持つ古い系統情報を精査することで、北海道と本州のそれぞれの地域の集団の在来性を明らかにしておく必要がある。

【材料・方法】

Type I 種の分布が報告されている中部地方以東を中心に採集された個体において、mtDNA のチトクローム *b* 遺伝子を対象とした塩基配列から系統地理学的パターンを解析した。

【結果・考察】

北海道および本州北東部に生息する 37 集団から 64 のハプロタイプが確認され、これらのハプロタイプは 2 つのクレード (クレード間塩基置換率: 約 9%) を形成した。片方のクレードは太平洋側の東北地方南部から関東周辺の集団から検出されたハプロタイプが多く占めており、この地域の地理的近接性と概ね一致する 3 つのサブクラスターが形成された。もう片方のクレードは北海道と日本海側の東北地方から北陸地方にかけての本州から検出されたハプロタイプで形成され、3 つのサブクラスターが認められた。北海道のハプロタイプは 2 つのサブクラスターに含まれ、多くは本州の集団と共通していた。また、北海道のハプロタイプの分布からは地理的な遺伝的構造は認められなかった。これまで、北海道の Type II 種は人為的な移殖が示唆されていたが、Type I 種についても移殖である可能性が高い。